

矢板市まち・ひと・しごと創生総合戦略 施策体系とKPI一覧

矢板市まち・ひと・しごと創生総合戦略 施策体系とKPI一覧														対象年度	令和 3 年度		
【基本目標／基本的方向／具体的施策】				戦略 ページ	検証 シート No	数値目標／KPI	新規 継続 別	現状値(R2)	実績値(R3)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)	実績値(R7)	目標値(R7)	進捗状況	担当課	
こ し と	安定した雇用をつくとともに、安心して働けるようにする		104	1	市内民間従業者数(人)	継続	13,349(H28)	12,245(R3)						13,349	🔴	商工観光課	
			104	2	市内民間事業所数(事業所)	継続	1,336(H28)	1,216(R3)						1,336	🔴	商工観光課	
		時代に即した産業を振興 するまちの実現	産業間のコラボレーション 儲ける、儲かる農林業への転換	104	3	やいたブランド開発補助件数(累計)(件)	継続	8	8						12	🟢	商工観光課
				104	4	農地利用集積率(%)	継続	63.1	64.7						80	🟢	農林課
	安心して働ける環境の実 現	企業誘致 創業支援 企業体質強化支援 事業継承支援	105	5	誘致企業数(累計)(社)	継続	42	45						47	🟢	商工観光課	
			105	6	後継者育成研修受講者数(累計)(人)	継続	12	12						17	🟢	商工観光課	
			105	7	「経営(創業等)塾inやいた」受講者数(累計)(人)	継続	—	10						50	🟢	商工観光課	
ひ と	来てもらう、住んでもらう、新しい人の流れをつくる		106	8	交流人口数(人)	継続	1,742,335	1,872,706						2,000,000	🟢	商工観光課	
	U/Iターンによる移住・定 住の促進	定住し続けられる取り組み (住環境の満足化) Uターン者等への支援 (故郷への回帰) 定住へつなげる取り組み	106	9	純移動数(人)	継続	-347(H30)	-199(R1)						±0	🟢	総合政策課	
			107	5	(再掲)誘致企業数(累計)(社)	継続	42	45						47	🟢	商工観光課	
			107	10	就職支援による市内企業就職者数(人)	継続	21	23						21	🟢	商工観光課	
			107	11	定住補助金申請件数(累計)(件)	継続	807	895						1,220	🟢	都市整備課	
	交流人口、関係人口の 創出・拡大	スポーツツーリズムの深化 観光拠点づくり 今ある施設への誘客 (多機能化・顧客深耕化) 矢板市文化・スポーツ複合施設の 整備	107	12	道の駅利用者数(万人)		123	136						129	🟢	農林課	
			107	13	スポーツ交流人口(人)	継続	101,641	115,319						250,000	🟢	商工観光課	
			107	14	スポーツツーリズムによる経済波及効果(万円)	新規	140,168	121,905						212,500	🔴	商工観光課	
	多世代を支援する		108	15	合計特殊出生率	継続	1.32(H30)	1.21(R元)						1.50	🔴	子ども課	
	結婚・出産・子育て・健幸 づくりの支援	結婚・出産への支援 子育てへの支援 ワーク・ライフ・バランス支援 (仕事と子育ての両立) ふるさと学習機会の充実 教育支援 健幸づくりの推進	108	16	0-4歳人口(人)	継続	892	812						1,000	🔴	総合政策課	
			109	17	不妊治療補助件数(件)	新規	25	50						40	🟢	子ども課	
			109	18	産後ケア事業参加者数(人)	新規	18	22						25	🟢	子ども課	
			109	19	本市で子育てをしたいと思う親の割合(%)	新規	88	96.7						93	🟢	子ども課	
			109	20	外部人材の活用による授業、講座等の開催数 (回/各学校)	新規	10	12						20	🟢	生涯学習課	
			109	21	学校支援ボランティア登録者数(総数)(人)	新規	282	268						340	🔴	生涯学習課	
			109	22	やいた健康ポイント事業参加者数(累計)(人)	新規	785	1,065						2,160	🟢	健康増進課	
ま ち	安心して快適に暮らすことができる活力ある地域をつくる		109	25	住み良さに対する満足度(%)	継続	59.8	—						70	—		
	安心安全な生活を実現 する環境の確保	地域の特性を生かした拠点づくり 交通機能の充実 (利便性、交通アクセス) 防災・防犯体制の強化 公共施設の統廃合・多機能化 (長寿命化・耐震化)	109	26	地域活動への参加状況(%)	継続	40.9	—						50	—		
			111	27	小さな拠点等の取組数(地区)	継続	1	1						2	🟢	総合政策課	
			111	28	デマンド交通及び市営バス 1日当たり乗車人数(人)	継続	56.6	64.0						80.0	🟢	総務課	
			111	29	自主防災組織の設立数(か所)	継続	43	43						65	🟢	生活環境課	
	市民・行政の共創による まちづくり		111	30	市民協働のまちづくり事例数(5年間累計)(団体)	新規	10 (H28～R2)	11						14 (R3～R7)	🟢	総合政策課	

当該年度の
進捗状況

▶	概ね順調	進捗状況20%以上
▶	やや遅れている	進捗状況20%未満
■	遅れている	現状値と乖離している
—	実績値なし	

※進捗状況は、目標値の1年目20%、2年目40%、3年目60%、4年目80%、5年目100%

矢板市まち・ひと・しごと創生総合戦略進行管理検証シート

No.1

基本目標	『安定した雇用をつくとともに、安心して働けるようにする』
------	------------------------------

課名 商工観光課

基本的方向	具体的な施策
時代に即した産業を振興するまちの実現	産業間のコラボレーション
	儲ける、儲かる農林業への転換
安心して働ける環境の実現	企業誘致
	創業支援
	企業体質強化支援
	事業継承支援

目標数値	指標名	市内民間従業者数（人）	
	現状値	令和2年度	13,349（H28）
	実績値	令和3年度	12,245（R3速報値）
	目標値	令和7年度	13,349
	未達成の場合の理由	平成30年に大手家電メーカー工場の休止に伴い、関連企業も含めた従業者数が減少した。	
	令和3年度 of 取組に対する総括	企業訪問や展示会などでのPR活動により矢板南産業団地への企業立地促進を図ったほか、「空き店舗等対策事業支援補助金」による創業支援、制度融資による中小企業支援、市内企業への就業支援の取組を通して、雇用の確保に努めた。	

※現状値、実績値、目標値は経済センサス活動調査の数字による。

（経済センサス活動調査は5年ごとに実施、①H24.2、②H28.6、③R3.6）

基本目標	『安定した雇用をつくとともに、安心して働けるようにする』
------	------------------------------

課名 商工観光課

基本的方向	具体的な施策
時代に即した産業を振興するまちの実現	産業間のコラボレーション
	儲ける、儲かる農林業への転換
安心して働ける環境の実現	企業誘致
	創業支援
	企業体質強化支援
	事業継承支援

目標数値	指標名	市内民間事業所数（事業所）	
	現状値	令和2年度	1,336（H28）
	実績値	令和3年度	1,216（R3速報値）
	目標値	令和7年度	1,336
	未達成の場合の理由	大手家電メーカー関連企業の減少のほか、従業員規模の小さい零細企業を中心に、事業主の高齢化や後継者不在を理由とした廃業が顕在化している。	
	令和3年度の取組に対する総括	<p>企業訪問や展示会などでのPR活動により矢板南産業団地への企業立地促進を図ったほか、「空き店舗等対策事業支援補助金」による創業支援、制度融資による中小企業への事業継続支援を行った。</p> <p>このほか、事業者の事業継続を図るため、商工会と連携し、第二創業や事業承継などの支援を行った。</p>	

※現状値、実績値、目標値は経済センサス活動調査の数字による。
（経済センサス活動調査は5年ごとに実施、①H24.2、②H28.6、③R3.6）

矢板市まち・ひと・しごと創生総合戦略進行管理検証シート

No.3

基本目標	『安定した雇用をつくとともに、安心して働けるようにする』
基本的方向	時代に即した産業を振興するまちの実現
具体的施策	産業間のコラボレーション・儲ける、儲かる農林業への転換

課名 商工観光課

具体的な施策	事業名	やいたブランド認証事業	
	事業内容	優れた農林水産品、商品等のブランド化や新規ブランド開発支援を実施し、販路拡大、地域経済の活性化、市のPRを図る。	
	取組状況 (R3)	開発補助 0件	
	課題等	制度が認知されていないため、さらなる周知徹底を図る。	
重要業績評価指標 KPI	指標名	やいたブランド開発補助件数（累計）（件）	
	現状値	令和2年度	8
	実績値	令和3年度	0（8）
	目標値	令和7年度	12
	未達成の場合の理由	補助金の利用に関する問合せはあったが、補助要件を満たしていなかったため、利用に繋がらなかった。	
	令和3年度の取組に対する総括	やいたブランド認証への申請は多く、昨年度も4品目の認証を行ったが、開発補助金については、制度を認知されておらず、利用に至らなかった。	

矢板市まち・ひと・しごと創生総合戦略進行管理検証シート

No.4

基本目標	『安定した雇用をつくとともに、安心して働けるようにする』
基本的方向	時代に即した産業を振興するまちの実現
具体的施策	産業間のコラボレーション・儲ける、儲かる農林業への転換

課名 農林課

具体的な施策	事業名	農業経営基盤強化促進事業	
	事業内容	農業経営基盤強化促進法に基づく農地の流動化、担い手の育成、遊休農地の解消及び集落営農の推進等の施策を推進し、持続的な農業の発展と効率的かつ安定した農業経営体の育成・確保を行う。	
	取組状況 (R3)	市農業公社が窓口となり、農業経営基盤強化促進法に基づく利用権設定等を実施した。また、市農業公社が県農業振興公社から農地中間管理事業を受託し、農地の集約化に努めた。	
	課題等	市農業公社による担い手と出し手のマッチングをするための情報が不足している。また、農地の集積、集約の前提となる地域での話し合いが十分にできていない。	
重要業績評価指標 KPI	指標名	農地利用集積率（％）	
	現状値	令和2年度	63.1
	実績値	令和3年度	64.7
	目標値	令和7年度	80
	未達成の場合の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・担い手となる認定農業者等の数が増えていない。 ・農地の集積、集約の前提となる地域での話し合いが十分にできていない。 	
	令和3年度の取組に対する総括	集積率は毎年上昇しているが、目標達成には至らなかった。令和3年度に人・農地プランの実質化に伴う地域での話し合いを実施しており、今後も継続して支援していく必要がある。	

矢板市まち・ひと・しごと創生総合戦略進行管理検証シート

No.5

基本目標	『安定した雇用をつくとともに、安心して働けるようにする』
基本的方向	安心して働ける環境の実現
具体的施策	企業誘致

課名 商工観光課

具体的な施策	事業名	企業誘致推進事業	
	事業内容	県産業政策課企業立地班・県企業局と連携を図り、引き合い企業への現地案内や各種展示会等で矢板南産業団地等のPR活動を実施する。	
	取組状況	企業訪問 17社 展示会でのパンフレットによるPR 2回	
	(R3)	誘致企業：(株)HOPE、HCCソフト(株)、 (株)ハナツカコンストラクション	
	課題等	矢板南産業団地の販売可能区画が僅かとなっていることから、矢板北SIC周辺への産業団地整備及びシャープ(株)工場跡地、民有地の利活用の検討	
重要業績評価指標 KPI	指標名	誘致企業数(累計)(社)	
	現状値	令和2年度	42
	実績値	令和3年度	3(45)
	目標値	令和7年度	47
	未達成の場合の理由		
	令和3年度取組に対する総括	矢板南産業団地への立地が順調に進んでいる。シャープ(株)工場跡地の利活用について、複数の引き合いはあるものの進捗は思わしくない。	

矢板市まち・ひと・しごと創生総合戦略進行管理検証シート

No.6

基本目標	『安定した雇用を創出する（仕事、職場をつくり出す）』
基本的方向	安心して働ける環境の実現
具体的施策	創業支援・企業体質強化支援・事業継承支援

課名 商工観光課

具体的な施策	事業名	矢板市後継者育成支援補助事業	
	事業内容	市内中小企業者の後継者育成の支援をするため、（財）栃木県産業振興センターが開催する「経営リーダー育成塾」を受講するために要する経費を補助する。	
	取組状況 (R3)	補助申請 0件	
	課題等	研修期間が長期に及ぶため、受講に費やす時間が確保できないなどの理由により、研修受講を断念する者もいるため、事業者に対し、受講への協力や理解を求めるなど、受講しやすい環境を作る必要がある。	
重要業績評価指標 KPI	指標名	後継者育成研修受講者数（累計）（人）	
	現状値	令和2年度	12
	実績値	令和3年度	0（12）
	目標値	令和7年度	17
	未達成の場合の理由	受講を希望する者がいなかったため。	
	令和3年度の取組に対する総括	1人/年ほどは市内企業からの受講希望者がいることが多いので、引き続き支援を行っていきたい。	

矢板市まち・ひと・しごと創生総合戦略進行管理検証シート

No.7

基本目標	『安定した雇用をつくとともに、安心して働けるようにする』
基本的方向	安心して働ける環境の実現
具体的施策	創業支援・企業体質強化支援・事業継承支援

課名 商工観光課

具体的な施策	事業名	商業等活性化支援事業	
	事業内容	商業者への補助を実施し、商業の活性化及び地域の活性化を図る。	
	取組状況 (R3)	<ul style="list-style-type: none"> ・地場産業PR促進補助金 ・空き店舗等対策 	
	課題等	補助をきっかけとして、企業や商店が自ら考え、稼ぐことができる実行力を身に付ける必要がある。	
重要業績評価指標 KPI	指標名	「経営(創業等)塾inやいた」受講者数(累計)(人)	
	現状値	令和2年度	—
	実績値	令和3年度	10(10)
	目標値	令和7年度	50
	未達成の場合の理由		
	令和3年度の取組に対する総括	新型コロナウイルス感染症の影響で先が見通せないこともあり、全体的に創業に消極的になっているが、受講者数は一定程度いるため、今後も商工会と連携して、市内での創業に繋がる支援を周知していきたい。	

基本目標	『来てもらう、住んでもらう、新しい人の流れをつくる』
------	----------------------------

課名 商工観光課

基本的方向	具体的な施策
ＵＩＪターンによる移住・定住の促進	定住し続けられる取り組み（住環境の満足化）
	Ｕターン者等への支援（故郷への回帰）
	定住へつなげる取り組み
交流人口、関係人口の創出・拡大	スポーツツーリズムの深化
	観光拠点づくり
	今ある施設への誘客（多機能化・顧客深耕化）
	矢板市文化・スポーツ複合施設の整備

目標数値	指標名	交流人口数（人）	
	現状値	令和２年度	1,742,335
	実績値	令和３年度	1,872,706
	目標値	令和７年度	2,000,000
	未達成の場合の理由		
	令和３年度の取組に対する総括	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客入込数が前年度と比較し減少した施設もあったが、全体として本市への観光客が戻りつつある。 ・スポーツ交流人口については、コロナ禍による大会・合宿の自粛に伴い依然厳しい状況であり、アフターコロナを見据えた顧客ニーズへの対応が課題である。 	

基本目標	『来てもらう、住んでもらう、新しい人の流れをつくる』
------	----------------------------

課名 総合政策課

基本的方向	具体的な施策
ＵＩＪターンによる移住・定住の促進	定住し続けられる取り組み（住環境の満足化）
	Ｕターン者等への支援（故郷への回帰）
	定住へつなげる取り組み
交流人口、関係人口の創出・拡大	スポーツツーリズムの深化
	観光拠点づくり
	今ある施設への誘客（多機能化・顧客深耕化）
	矢板市文化・スポーツ複合施設の整備

目標数値	指標名	純移動数（人）	
	現状値	令和２年度	-347（H30）
	実績値	令和３年度	-199（R01）
	目標値	令和７年度	±0
	未達成の場合の理由	平成30年の(株)シャープの社宅廃止や、若い世代の進学等に伴う転出増や戻り人口を増やせていないことが要因と思われる。 人口ビジョン策定時に比べ、近隣市町間での転出超過は減少気味であるが、首都圏への転出が増加しＵターン者を得られていない。	
	令和３年度の取組に対する総括	定住促進事業やＵターン者への支援等の取組みによる純移動数の改善に努めており、令和２年は-71に改善してきている。	

基本目標	『来てもらう、住んでもらう、新しい人の流れをつくる』
基本的方向	ＵＩＪターンによる移住・定住の促進
具体的施策	Ｕターン者等への支援（故郷への回帰）

課名 商工観光課

具体的な施策	事業名	勤労者対策事業	
	事業内容	就職希望者やその保護者に対する支援を行い、市内の就業促進を図る	
	取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・市内企業採用担当者・近隣高校等就職担当教諭の情報（32企業・7校分）を集約・提供 ・矢板市就職ガイドブック「YAITURN2022」の発行（市内高校・掲載企業・R3年度成人式対象者などへ配布） 	
	(R3)		
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・市内企業や学校との連携強化 ・コロナ禍という状況に適した就職希望者への事業の実施 	
重要業績評価指標 KPI	指標名	就職支援による市内企業就職者数(人)	
	現状値	令和2年度	21
	実績値	令和3年度	23
	目標値	令和7年度	21
	未達成の場合の理由		
	令和3年度の取組に対する総括	<p>コロナ禍が続き、対面でのイベントは開催できなかったが、メールでのデータ提供や冊子の発行などコロナ禍においてできる限りの事業を実施した結果、目標達成につながった。</p> <p>今後も、新型コロナウイルスの感染状況に応じた、就業支援に取り組んでいく。</p>	

基本目標	『来てもらう、住んでもらう、新しい人の流れをつくる』
基本的方向	ＵＩＪターンによる移住・定住の促進
具体的施策	定住へつなげる取り組み

課名 都市整備課

具体的な施策	事業名	矢板市「暮らし」のびのび定住促進補助事業	
	事業内容	矢板市内に住居を求める者に対して補助金を交付し、若い世代を中心とする東京圏への流出に歯止めをかけ、定住促進を図る。	
	取組状況	定住を促進するため、各支援制度のチラシやHPにて、広く制度の周知を行った。また、国・市の押印規定の見直しに伴い、申請者本人の署名であれば押印不要とする改正を行い、申請者の負担軽減を図った。	
	(R3)		
	課題等	本制度利用者における転入・転居の割合は、市内からの転居者が多い状況にある。令和2年度より東京圏からの移住促進のための制度改正を行ったが、引き続き市外からの転入者を増やすため、内容を検討する必要がある。	
重要業績評価指標 KPI	指標名	定住補助金申請件数（累計）（件）	
	現状値	令和2年度	807
	実績値	令和3年度	895
	目標値	令和7年度	1220
	未達成の場合の理由	目標値には達していないが、令和3年度末時点での達成率は99.4%と、ほぼ予定通り推移している。制度内容としては県内でも手厚い制度となっているため、より効果的に情報発信ができれば達成できたと思われる。	
	令和3年度の取組に対する総括	本事業は制度創設から、移住定住支援策として随時制度の見直しを行い、一定の効果を挙げている。現在策定中の立地適正化計画の居住誘導施策との整合性を図りながら、更に効果を検証し、制度の見直しを図り、制度の手厚さと矢板市の魅力を効果的に情報発信できるよう検討する。	

矢板市まち・ひと・しごと創生総合戦略進行管理検証シート

No.12

基本目標	『来てもらう、住んでもらう、新しい人の流れをつくる』
基本的方向	交流人口、関係人口の創出・拡大
具体的施策	スポーツツーリズムの深化・観光拠点づくり・今ある施設への誘客 ・矢板市文化・スポーツ複合施設の整備

課名 農林課

具体的な施策	事業名	道の駅管理事業	
	事業内容	「道の駅やいた」の管理運営を通して、交流人口の増加、地場産業の振興、市内経済の活性化を図る。	
	取組状況 (R3)	定休日返上、営業時間拡大、農産物出荷者指導・育成等を行った。	
	課題等	年間を通して、充実した商品の提供。	
重要業績評価指標 KPI	指標名	道の駅やいた関連施設利用者数（万人）	
	現状値	令和2年度	123
	実績値	令和3年度	136
	目標値	令和7年度	129
	未達成の場合の理由		
	令和3年度 の取組に対する 総括	新型コロナウイルスの影響を受けながらではあったが、昨年度より13万人増加した。	

基本目標	『来てもらう、住んでもらう、新しい人の流れをつくる』
基本的方向	交流人口、関係人口の創出・拡大
具体的施策	スポーツツーリズムの深化・観光拠点づくり・今ある施設への誘客 ・矢板市文化・スポーツ複合施設の整備

課名 商工観光課

具体的な施策	事業名	スポーツツーリズム推進事業	
	事業内容	スポーツを通じて新しい旅行の魅力を創り出し、地域の観光資源と組み合わせることにより交流人口の増加、新たなビジネスの創出、地域経済の活性化を図る。	
	取組状況 (R3)	・スポーツ大会・合宿の誘致開催（補助事業の実施） 大会支援3団体、合宿支援13団体	
	課題等	・コロナ禍による大会・合宿の自粛に伴い依然厳しい状況であり、アフターコロナを見据えた顧客ニーズへの対応が課題である。	
重要業績評価指標 KPI	指標名	スポーツ交流人口（人）	
	現状値	令和2年度	101,641
	実績値	令和3年度	115,319
	目標値	令和7年度	250,000
	未達成の場合の理由	・新型コロナウイルス感染症拡大に伴う移動自粛により、スポーツ大会・合宿の開催が中止となったため。	
	令和3年度の取組に対する総括	・新型コロナウイルス感染症の拡大が、本事業の成果に大きな影響を及ぼす結果となった。 ・アフターコロナを見据えた顧客ニーズへの対応が課題であることから、主に首都圏のターゲットに対してアンケートを実施し顧客ニーズの把握を行った。	

基本目標	『来てもらう、住んでもらう、新しい人の流れをつくる』
基本的方向	交流人口、関係人口の創出・拡大
具体的施策	スポーツツーリズムの深化・観光拠点づくり・今ある施設への誘客 ・矢板市文化・スポーツ複合施設の整備

課名 商工観光課

具体的な施策	事業名	スポーツツーリズム推進事業	
	事業内容	スポーツを通じて新しい旅行の魅力を創り出し、地域の観光資源と組み合わせることにより交流人口の増加、新たなビジネスの創出、地域経済の活性化を図る。	
	取組状況 (R3)	・スポーツ大会・合宿の誘致開催（補助事業の実施）	
	課題等	・コロナ禍による大会・合宿の自粛に伴い依然厳しい状況であり、アフターコロナを見据えた顧客ニーズへの対応と地域内消費につながる施策展開が課題である。	
重要業績評価指標 KPI	指標名	スポーツツーリズムによる経済波及効果（万円）	
	現状値	令和2年度	140,168
	実績値	令和3年度	121,905
	目標値	令和7年度	212,500
	未達成の場合の理由	スポーツ交流人口は前年度比で増加したが、コロナ禍に伴う移動自粛により客単価の高いスポーツ合宿が減少したため、経済波及効果が伸び悩んだ。	
	令和3年度の取組に対する総括	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の拡大が、本事業の成果に大きな影響を及ぼす結果となった。 ・アフターコロナを見据えた顧客ニーズへの対応が課題であることから、主に首都圏のターゲットに対してアンケートを実施し顧客ニーズの把握を行った。 	

基本目標	『多世代を支援する』
------	------------

課名 子ども課

基本的方向	具体的な施策
結婚・出産・子育て・健幸づくりの支援	結婚・出産への支援
	子育てへの支援
	ワーク・ライフ・バランス支援（仕事と子育ての両立）
	ふるさと学習機会の充実
	教育支援
	健幸づくりの推進
高齢世代への社会参加等の支援	健康寿命をのばす取り組み（高齢者の社会参加、社会貢献）
	地域包括ケアシステムの構築

目標数値	指標名	合計特殊出生率	
	現状値	令和2年度	1.32（H30）
	実績値	令和3年度	1.21（R元）
	目標値	令和7年度	1.5
	未達成の場合の理由	子育て世帯にとっては、経済的負担だけでなく核家族化及び共働きによる時間的な負担も影響しているものとする。	
	令和3年度 の取組に対する 総括	子育て世代に対する経済的支援策を講じると共に、妊娠期から子育て期にわたるまでの切れ目のない支援を行うことを目的とし、平成30年度に子ども課内に設置した子育て世代包括支援センターにおいて母子保健に関する専門職員による支援事業を実施している。若年の初産婦等が妊娠届け出を行った場合、特定支援妊婦として保健師等が支援しているが、出産後も継続支援をするケースは、就労や経済的な問題を要因とするケースも多く、就労支援等を含め関係機関と連携していくことが重要とする。	

基本目標	『多世代を支援する』
------	------------

課名 総合政策課

基本的方向	具体的な施策
結婚・出産・子育て・健幸づくりの支援	結婚・出産への支援
	子育てへの支援
	ワーク・ライフ・バランス支援（仕事と子育ての両立）
	ふるさと学習機会の充実
	教育支援
	健幸づくりの推進
高齢世代への社会参加等の支援	健康寿命をのばす取り組み（高齢者の社会参加、社会貢献）
	地域包括ケアシステムの構築

目標数値	指標名	0-4歳人口（人）	
	現状値	令和2年度	892
	実績値	令和3年度	812
	目標値	令和7年度	1,000
	未達成の場合の理由	社会現象でもある晩婚化や未婚率の上昇が要因であると考えられる。子育てと仕事の両立の負担増及びコロナ禍による生活不安等の影響も考えられる。	
	令和3年度への取組に対する総括	平成26年度から毎年数値が減少しており、指標の減少傾向が続く中、コロナ禍による社会・経済不安の影響もあり令和2年度から令和3年度の減少幅が大きくなっている。アフターコロナに対応しつつ、若い世代への支援や教育支援を通じて、人口減少に対する取組や適応を図っていききたい。	

基本目標	『多世代を支援する』
基本的方向	結婚・出産・子育て・健幸づくりの支援
具体的施策	結婚、出産への支援・子育てへの支援・ワーク・ライフ・バランス支援

課名 子ども課

具体的な施策	事業名	矢板市不妊治療費補助金交付事業	
	事業内容	不妊治療を受けている夫婦の当該不妊治療に要する費用に係る経済的負担を軽減し、もって少子化対策の推進を図るための不妊治療費補助金を交付する。	
	取組状況 (R3)	補助交付対象者から健康保険等の医療保険が適用されない不妊治療に要した費用において補助申請があったものについて、申請内容等を審査し補助金の交付決定及び交付を行った。	
	課題等	令和4年度から不妊治療費の保険適用が決定されている。特定不妊治療（体外受精・顕微授精）については、県の交付決定に基づき交付していることから今後も引き続き本市における申請期限の設定及び予算措置が必要になる。	
重要業績評価指標 KPI	指標名	不妊治療補助件数（件）	
	現状値	令和2年度	25
	実績値	令和3年度	50
	目標値	令和7年度	40
	未達成の場合の理由		
	令和3年度の取組に対する総括	本事業は、経済的負担を軽減し、少子化対策の一つとして行っている。償還払いによる補助であることからある程度経済的に余裕のある世帯は、特定不妊治療による申請となっているものと考ええる。市単独補助の人工授精については、比較的若い方の申請であり、通算6回の治療を終えて申請するケースがあった。治療により妊娠された方もいるので、少子化対策としての効果はあるものと考ええる。	

基本目標	『多世代を支援する』
基本的方向	結婚・出産・子育て・健幸づくりの支援
具体的施策	結婚、出産への支援・子育てへの支援・ワーク・ライフ・バランス支援

課名 子ども課

具体的な施策	事業名	矢板市産後ケア事業	
	事業内容	市内に住所を有し、出産後4か月未満の母子に対し、心身のケア、育児サポート等を行い安心して子育てができる支援体制の確保を行う。	
	取組状況	保健師による赤ちゃん訪問時に、事業の内容説明を行い、支援が必要と思われる対象者には、利用を促した。市内医療機関（1か所）に委託し、家族等から十分な家事及び育児等の援助を受けられない者で、かつ、日常生活への不安、心身の不調、育児不安（多胎児出産）等がある者に対し宿泊型及びデイ型により、休養の機会の提供や保健指導等の支援を行った。	
	(R3)		
	課題等	現在の委託機関は、市内医療機関1か所のみであり、そこも令和4年6月末までの委託となることが決定している。今後、委託機関の拡充を含め利用者支援を継続できる体制を早急に取り組む必要性がある。 また、産後ケアを必要とする「出産後4か月未満」とされていたものが「出産後1年を経過しない女子及び乳児」と母子保健法の一部改正されてはいるが、委託医療機関等の設備等の対応が困難なため、現状に留まっている。 費用負担が生じるため、利用していないケースもあるものと思われる。	
重要業績評価指標 KPI	指標名	産後ケア事業参加者数（人）	
	現状値	令和2年度	18
	実績値	令和3年度	22
	目標値	令和7年度	25.0
	未達成の場合の理由	出生数の減少及びコロナ禍によるもの考える。本来この事業における支援数（参加者数）は少ないことが理想である。しかし、この支援を必要としている者、保健師等が支援すべき者と判断した者が利用しやすい事業として機能する取組を行う必要がある。	
	令和3年度の取組に対する総括	対象者となる方の環境を出産前から把握し、妊婦のうちからこの事業の情報提供を行い、スムーズな利用に繋げると共に、関係機関との連携を図り保健師間での情報の共有と支援勧奨を行っていく。 今後、委託先となる医療機関等を拡充し、利用する側の選択肢を増やす等利用しやすいものとする必要もあると考える。	

基本目標	『多世代を支援する』
基本的方向	結婚・出産・子育て・健幸づくりの支援
具体的施策	結婚、出産への支援・子育てへの支援・ワーク・ライフ・バランス支援

課名 子ども課

具体的な施策	事業名	子育て世代包括支援センター事業	
	事業内容	妊娠期から子育て期にわたるまでの母子保健及び育児に関する様々な悩み等に円滑に対応するため、母子保健型利用者支援事業として切れ目ない支援を行う。	
	取組状況	対象者である妊産婦並びに就学前までの乳幼児及び保護者に対し、母子保健の専門知識を有する保健師等による相談対応業務を行い、個々の相談ケースに応じて関係機関と連携し、子育て支援サービス等の利用に繋げる支援体制を構築すると共に継続的支援を行った。	
	(R3)	妊娠届のあった際や市ホームページ等によりセンターの案内を常時行っている。また、出生届出時に保護者の方へ本市独自に作成した育児ファイルや子育て応援ブックをお渡しし、子育てに関する情報提供を行っている。出生後の赤ちゃん訪問及び母子保健法による各種健康診査における問診及び乳幼児健康相談等において保健師等による保健指導を行い、特に必要な場合は随時訪問等による保健指導を行い、関係機関に繋いだ。	
	課題等	地域で安心して子育てができる環境づくりとして、個々に対する支援体制を妊娠から継続的に行うためには、機会があるごとに訪問や面談を行い、関係機関との情報の共有に努め支援策を講じていく必要がある。地域とのつながりが希薄化している中、情報の把握は対象者との関係性をいかに構築していけるのか、ということにかかっているため、保健師等の専門性のスキルアップがより求められているものと考える。	
重要業績評価指標 KPI	指標名	本市で子育てをしたいと思う親の割合（％）	
	現状値	令和2年度	88
	実績値	令和3年度	96.7
	目標値	令和7年度	93.0
	未達成の場合の理由		
	令和3年度 の取組に対する 総括	窓口における妊娠届、出生届の際に保健師による情報の収集によりそれを基に、個々に応じた支援を行った。 特に支援が必要と思われる妊婦に関しては、関係医療機関との情報の共有を行い、出産まで及び出産後の支援プランを作成の上、対応している。その後についても子育てに関する支援については、関係機関と連携して継続支援を行っている。また、各種健康診査において子の発達の状況、保護者の心身の状況を把握し、支援が必要な場合は関係機関の紹介等を行うことで、円滑に支援策に結びついている。	

基本目標	『多世代を支援する』
基本的方向	結婚・出産・子育て・健幸づくりの支援
具体的施策	ふるさと学習機会の充実・教育支援・健幸づくりの推進

課名 生涯学習課

具体的な施策	事業名	学校支援ボランティア・出前講座	
	事業内容	地域学校協働活動推進員（統括コーディネーター）を置き、学校からの学校支援ボランティアの依頼や出前講座の要請に応じ、ボランティアスタッフの派遣や調整を行う。	
	取組状況 (R3)	矢板市地域学校協働本部を設置し、地域住民が学校と連携・協働する仕組みの構築を目指し、統括コーディネーターが学校からの要請や相談に応じ、地域住民（ボランティアスタッフ）を学校とつなげる。 132回／11校＝12回／1校あたり	
	課題等	新型コロナによる中止が多かった。 中学校での活用事例が小学校と比して少ない。	
重要業績評価指標 KPI	指標名	外部人材の活用による授業、講座等の開催数（回／各学校）	
	現状値	令和2年度	10
	実績値	令和3年度	12
	目標値	令和7年度	20
	未達成の場合の理由	新型コロナによる中止が37回あった。またボランティアの活用を控える事例が多く見られた。	
	令和3年度の取組に対する総括	小学校を中心に、読み聞かせやミシンボランティアなど多くの活用事例があり、一定度の学校には定着したと思われる。新型コロナの感染拡大状況が改善されれば、目標達成は可能と思われる。	

基本目標	『多世代を支援する』
基本的方向	結婚・出産・子育て・健幸づくりの支援
具体的施策	ふるさと学習機会の充実・教育支援・健幸づくりの推進

課名 生涯学習課

具体的な施策	事業名	学校支援ボランティア講座	
	事業内容	学校支援ボランティアの必要性・やりがい・心構えなどを体験的に学ぶ講座を開催する。	
	取組状況 (R3)	受講者：16名 全8回のうち6回開催 (うち、2回は新型コロナによる中止)	
	課題等	ミシンボランティアなど、体験しながら学ぶ講座のため、受け入れてくれる学校の協力が不可欠である。	
重要業績評価指標 KPI	指標名	学校支援ボランティア登録者数（総数）（人）	
	現状値	令和2年度	282
	実績値	令和3年度	268
	目標値	令和7年度	340
	未達成の場合の理由	ボランティアスタッフの高齢化。 新型コロナ感染拡大によるボランティア活動の自粛。	
	令和3年度の取組に対する総括	ボランティア講座をはじめて開催し、新型コロナ感染拡大の中、手探りでの実施であったが、回数を重ねるごとに受講生が生きいきと活動している姿が印象的であった。ボランティアスタッフの生涯学習・自己実現に資することを認識できた。	

基本目標	『多世代を支援する』
基本的方向	結婚・出産・子育て・健幸づくりの支援
具体的施策	健幸づくりの推進

課名 健康増進課

具体的な施策	事業名	やいた健康ポイント事業	
	事業内容	市民の健康づくりへの動機付け及び運動習慣の定着を促進するため、市が実施する健康づくり事業に参加した方にポイントを付与するとともにポイントの累計に応じて褒賞品を贈呈する。	
	取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報3月号で参加者を募集し、4/22-24で計4回、説明会を開催。R3新規参加者は280人で、R3参加者全体は785人。（※参加は3カ年継続） ・ 参加者の健康に資する取組に対しポイントを付与。 	
	(R3)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 12/15-1/14でポイント交換を実施。参加者のうち584人によって3,251,000ポイントが市内で利用可能な商品券等と交換された。 	
	課題等	参加対象は40歳以上の市民であるが、60代・70代の参加者が74%を占めるため、40代・50代の比較的若い層への周知・参加促進が課題である。	
重要業績評価指標 KPI	指標名	やいた健康ポイント事業参加者数（累計）（人）	
	現状値	令和2年度	785
	実績値	令和3年度	1065
	目標値	令和7年度	2160
	未達成の場合の理由	(R3の目標値は1060人のため、達成)	
	令和3年度の取組に対する総括	<p>事業開始から4年目。定員を超える申込みがあったことから、市民への認知度はある程度高まったものと考えられる。</p> <p>また、参加者全体のうち、1日の平均歩数が5,000歩以上の方は76.8%、さらに8,000歩以上の方は37.3%であり、大きく健康増進に寄与され、あわせて、ポイントを交換した商品券により地域経済の活性化が図られた。</p>	

基本目標	『多世代を支援する』
基本的方向	高齢世代への社会参加等の支援
具体的施策	健康寿命をのばす取り組み・地域包括ケアシステムの構築

課名 高齢対策課

具体的な施策	事業名	はつらつ館運営事業	
	事業内容	高齢者相互のふれあいと地域の子どもの交流を含めた生きがい活動を通し、保健福祉の充実を推進するために、円滑な管理運営を図る。	
	取組状況	新型コロナウイルス感染症の影響から、利用者数を制限しながらイベント等を企画実施し、広報やホームページ、チラシ等での周知に努めるとともに、高齢者の引きこもり防止や居場所づくりのための行事を行った。	
	(R3)		
重要業績評価指標 KPI	課題等	新型コロナウイルス感染症による健康づくりのための活動の制限	
	指標名	はつらつ館利用者数（年間）（人）	
	現状値	令和2年度	3,059
	実績値	令和3年度	4,890
	目標値	令和7年度	8,000
	未達成の場合の理由	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、約2ヶ月半の休館や3密回避のため利用者数に制限したことから、未達成となった。	
	令和3年度の取組に対する総括	令和3年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、目標値を大きく下回ったものの、各種事業実施において、感染対策の徹底を図り、人数制限をするなど厳しい状況ではあったが、前年度と比較すると1,831人増となった。コロナ禍でも行えるイベント等の企画実施が、利用者ニーズに合致したと推測される。	

基本目標	『多世代を支援する』
基本的方向	高齢世代への社会参加等の支援
具体的施策	健康寿命をのばす取り組み・地域包括ケアシステムの構築

課名 高齢対策課

具体的な施策	事業名	きらきらサロン事業	
	事業内容	高齢者やその他支援の必要な方が健康で自立し、安心して暮らせるよう地域支え合い体制づくりを推進するため、サロン事業実施者を支援する。	
	取組状況 (R3)	広報により周知を行った。	
	課題等	新型コロナウイルス感染症により、新規立ち上げが難しい。また、感染者数の増加により感染対策を行っても実施が制限された。	
重要業績評価指標 KPI	指標名	きらきらサロン（高齢者サロン）設置数（か所）	
	現状値	令和2年度	26
	実績値	令和3年度	26
	目標値	令和7年度	31
	未達成の場合の理由	新型コロナウイルス感染者の増加により、人が集まること自体が制限され、申請後に休止したサロンが複数あった。年度内に新規立ち上げサロンが1か所あったが、廃止したサロンも1か所あった為、総数に変化はない。	
	令和3年度の取組に対する総括	新型コロナウイルス感染症対策を講じながら実施したサロンが多かった。今後も新規数を増やすことで一人でも多くの方が通える場所を増やしていく。	

基本目標	『安心して快適に暮らすことができる活力ある地域をつくる』
------	------------------------------

課名 総合政策課

基本的方向	具体的な施策
安心安全な生活を実現する環境の確保	地域の特性を生かした拠点づくり
	交通機能の充実（利便性、交通アクセス）
	防災・防犯体制の強化
	公共施設の統廃合・多機能化（長寿命化・耐震化）
市民・行政の共創によるまちづくり	地域コミュニティ活動の推進

目標数値	指標名	住み良さに対する満足度（％）	
	現状値	令和２年度	59.8（R1）
	実績値	令和３年度	-
	目標値	令和７年度	70.0
	未達成の場合の理由	令和元年12月に市民意識調査を実施。前回（平成27年）と比較し微増であった。同調査での「住みにくい理由」では、「まちに魅力や活気がない」「まちに発展性がない」「買い物などの日常生活が不便」が上位3つ、「住みやすい理由」では、「買い物などの日常生活が便利」が一番の理由であった。まちの魅力・活気・発展性が満足度を得られない原因と思われる。	
	令和３年度の取組に対する総括	やいた創生未来プランとして総合計画と一体的に作成した総合戦略に基づき、令和３年度から５年間の計画期間とし、公共施設の統廃合・多機能化や地域コミュニティ活動の推進、コンパクトシティを基軸とした拠点づくり等を進め、住みよさに対する満足度向上に努めていく。	

基本目標	『安心して快適に暮らすことができる活力ある地域をつくる』
------	------------------------------

課名 総合政策課

基本的方向	具体的な施策
安心安全な生活を実現する環境の確保	地域の特性を生かした拠点づくり
	交通機能の充実（利便性、交通アクセス）
	防災・防犯体制の強化
	公共施設の統廃合・多機能化（長寿命化・耐震化）
市民・行政の共創によるまちづくり	地域コミュニティ活動の推進

目標数値	指標名	地域活動への参加状況（％）	
	現状値	令和２年度	40.9（R1）
	実績値	令和３年度	-
	目標値	令和７年度	50.0
	未達成の場合の理由	令和元年12月に市民意識調査を実施。前回（平成27年）と比較し約7％減少であった。同調査での「地域活動に参加していない理由」では、「きっかけがない」「参加できる時間がない」「興味がない」が上位3つ、「地域活動の課題」では、「活動に参加する住民が少ない」「参加者の高齢化」が大きな課題であった。核家族化や共働き世帯の増加による時間的制約や地域活動の周知不足が原因と思われる。	
	令和３年度の取組に対する総括	やいた創生未来プランとして総合計画と一体的に作成した総合戦略に基づき、令和３年度から５年間の計画期間とし、人口減少社会に適應したまちづくりを目指し、公共施設の統廃合・多機能化や地域コミュニティ活動の推進、コンパクトシティを基軸とした拠点づくり等を進め、地域活動への参加状況の向上に努めていく。	

基本目標	『安心して快適に暮らすことができる活力ある地域をつくる』
基本的方向	安心安全な生活を実現する環境の確保
具体的施策	地域の特性を生かした拠点づくり・公共施設の統廃合・多機能化

課名 総合政策課

具体的な施策	事業名	コンパクトシティを基軸とした拠点づくり 交通機能の充実等	
	事業内容	中心市街地の賑わいの創出や駅周辺の利便性の向上、新市街地の形成の検討、また、市営バス運行やスマートIC整備、主要幹線道路整備により、矢板・泉・片岡間の連携を図るための交通機能の充実を図る。	
	取組状況	地区別行政区長懇談会において行政区に対し、小さな拠点事業について説明を行い、拠点形成のための機運醸成を図った。	
	(R3)		
	課題等	今後に向けて、多様な主体の関係するコミュニティ作りが課題となる。	
重要業績評価指標 KPI	指標名	小さな拠点等の取組数（地区）	
	現状値	令和2年度	1
	実績値	令和3年度	0
	目標値	令和7年度	2
	未達成の場合の理由	周知活動を行ったが、拠点を整備するまでの地域の機運醸成はできなかったため。	
	令和3年度の取組に対する総括	令和2年度に矢板市子ども未来館に小さな拠点を形成できたことから、今後も小さな拠点形成のため、行政区等へ周知と支援を引き続き行っていく。	

基本目標	『安心して快適に暮らすことができる活力ある地域をつくる』
基本的方向	安心安全な生活を実現する環境の確保
具体的施策	交通機能の充実・公共施設の統廃合・多機能化

課名 総務課

具体的な施策	事業名	市営バス運行事業	
	事業内容	公共交通機関による受益が困難な交通空白地帯で、マイカーの利用が不可能な交通弱者に対し、生活の利便性を回復するため市営バスを運行する。	
	取組状況	令和3年10月1日より交通体系の再編 ・デマンド交通及び中央部循環路線 ・地域共助型生活交通の導入	
	(R3)		
	課題等	デマンド交通のデメリット（事前予約が手間、到着時間が読めない等）の解消のため、予約システム等の導入や乗車方法の周知が必要。	
重要業績評価指標 KPI	指標名	デマンド交通及び市営バス1日当たり乗車人数（人）	
	現状値	令和2年度	59.8
	実績値	令和3年度	64.0
	目標値	令和7年度	80.0
	未達成の場合の理由	令和3年度は、デマンド交通及び定時定路線型の中央部循環路線に再編したが、コロナウイルスの影響、またデマンド交通の相乗りの抵抗感や、今まで公共交通を利用できなかった方のデマンド交通の認知度が低いことが原因と思われる。	
	本年度の取組みに対する総括	令和3年度は、大幅に交通体系を見直し、デマンド交通及び定時定路線型の中央部循環路線に再編した。その結果、矢板市における交通空白地がなくなり、誰もが利用できる交通体系となったが、デマンド交通の認知度が低く、今後は利用者数の増加のため、さらなる周知活動が必要である。	

基本目標	『安心して快適に暮らすことができる活力ある地域をつくる』
基本的方向	安心安全な生活を実現する環境の確保
具体的施策	防災、防犯体制の強化・公共施設の統廃合、多機能化

課名 生活環境課

具体的な施策	事業名	防災活動推進事業	
	事業内容	自主防災組織の設立推進	
	取組状況 (R3)	コロナ禍で勧奨が難しく、積極的な推進活動ができなかった。	
	課題等	行政区ごとに防災意識の温度差がある。現在、組織設立をしていない団体に対しては、改めて勧奨をしなければいけないが、制度開始当初3か年に交付していた補助金が現在はない状態のため、設立時に援助できる対策（物品購入の助成など）が求められる。	
重要業績評価指標 KPI	指標名	自主防災組織の設立数（か所）	
	現状値	令和2年度	43
	実績値	令和3年度	43
	目標値	令和7年度	65
	未達成の場合の理由	コロナ禍の中、各行政区内での活動が制限されたことなどから、組織を立ち上げるための勧奨が難しい状態であったため。	
	本年度の取り組みに対する総括	防災意識の高い地区での設立が概ね完了した後の推進事業であり、いかに組織の重要性・必要性を理解してもらうかが課題となっている。今後は、未設立の行政区に対して、改めて組織や制度の説明などを文書などでお知らせし、また新規設立した団体に対しては、何らかの援助ができるよう検討する必要がある。	

基本目標	『安心して快適に暮らすことができる活力ある地域をつくる』
基本的方向	市民・行政の共創によるまちづくり
具体的施策	地域コミュニティ活動の推進

課名 総合政策課

具体的な施策	事業名	矢板創生推進交付金事業、市民活動助成金事業	
	事業内容	市民団体が行う公益性の高い事業に対して助成金を交付し、「市民力」のより一層の向上を図る。	
	取組状況 (R3)	既存団体1件、新規団体1件に対し市民活動助成金を交付した。	
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・市民意識の醸成 ・制度や活用事例の周知 ・事業費支援以外の立上げ支援 	
重要業績評価指標 KPI	指標名	市民協働のまちづくり事例数（5年間累計）（団体）	
	現状値	令和2年度	10
	実績値	令和3年度	11
	目標値	令和7年度	14
	未達成の場合の理由	3年間の支援期間が経過し、自走している団体も増加しているが、新規に申請する団体が少ないことが要因と思われる。	
	令和3年度の取組に対する総括	新規団体の申請が1件となっているが、近年は団体の若年化に転じていることから、今後も制度の周知方法を検討し、新規団体の掘り起こしを図る必要がある。	